

今年はインフルエンザにも要注意！



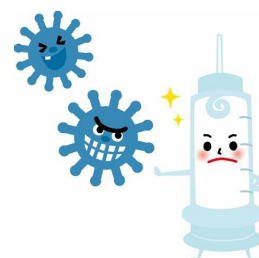
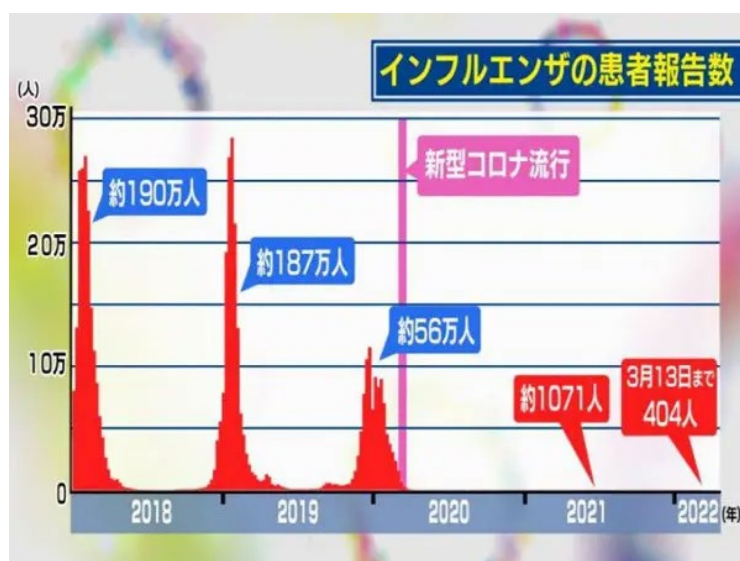
こんにちは。院長の梅津由子です。

秋の深まりを感じる今頃になると「今年はインフルエンザが流行るのか？」という話題をよく耳にするようになります。

気になるのが新型コロナウイルスとの関連です。10月10日～16日までの1週間に報告されたインフルエンザ患者の数は全国で97人でした。コロナ前は同じ時期に例年、数百人から千人程度の患者が報告されていましたが、それと比べると低い水準となっています。ただ、コロナが流行していた去年やおととしと比べると今年は10倍ほど多くなっているそうです。

日本のその年のインフルエンザの状況を予測する際、必ず参考にするのが南半球に位置して日本とは季節が真逆になるオーストラリアの状況です。オーストラリアでは例年より早くインフルエンザの流行が来たほか、アジアやヨーロッパでも流行が見られたそうです。こうした国や地域の中にはマスクの着用など基本的な感染対策を止めたところもあるので、対策を維持したうえで、新型コロナとの同時流行が起こるのかどうか注意して見ていく必要があるようです。

インフルエンザと新型コロナウイルスに同時に感染すると、重症化や死亡リスクが高まるとする報告もあります。有識者は、「コロナとインフルエンザそれぞれのウイルスの感染によって、肺の障害や全身状態悪化が進むので、感染が重なれば、症状が悪化してもおかしくない。また、以前は、1つのウイルスに感染するともう1つのウイルスに感染しにくくなる、『ウイルス干渉』という現象が起き、インフルエンザとコロナの同時感染は起きないのではと指摘されたこともあったが、今のところ、それを裏付けるようなデータは出ていない」と話しています。当院でもインフルエンザワクチンの接種を行っています。数に限りがございますので、お早目の予約をお願いします。



目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、
目の健康に関する情報や、
耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。



し の う く ん れ ん し 教えて！視能訓練士さん

米沢市の三歳児健診でも最近導入が始まった屈折検査
「スポットビジョンスクリーナー」についてのお話です！



屈折検査とは、目のピントが合うために必要な度数（屈折）を調べる検査です。屈折は、正視・遠視・近視・乱視に分かれます。屈折検査を視力検査と併用して実施することで、より正確な検査結果を得ることができます。

眼科での屈折検査は、機械にあごを乗せて測定するので、とくに小さいお子さんは怖がって検査できないことがあります。



「スポットビジョンスクリーナー」は、機械に触れることなく、両目同時に屈折を測定するので、短時間で検査することができます。

検査は保護者と一緒に椅子に座り、カメラで写真を撮るように行います。検査機器の指標はキラキラと光って、小鳥のさえずり音も出るので、子どもの興味を引き、検査への協力が得られやすいよう工夫されています。

インフルエンザ予防接種のお知らせ

インフルエンザのワクチン接種を行っています。

ワクチンが十分な効果を維持する期間は接種後約2週間後～約5ヵ月とされています。

流行時期に間に合うように、

12月中旬頃までには終わらせておくのが理想です。

予約制ですので、ご希望の方は受付に声をかけて下さい。



編集後記

SDGsへの取り組みとして、使い捨てレンズの空ケース回収運動を実施したいと思っています。詳しくはまた後日お知らせしますので、ご協力よろしくお願いします！

ビビ・まめちよ・モモ

